



園芸作物栽培に関する
これからの対策
と
Q&A

2月はじめは大寒の時期で真冬の様相ですが未になると雪解けも進み、年によっては圃場の耕起も可能になってくるなど月間の天候の変化の激しい月でもあります。本年は例年より北極点付近の気温が高く、寒気団はいくつかに分かれその周辺に分

布しているため、気候の振れが例年より大きく、気象予報がしづらくなっているようです。最近の予報でも春先まで寒暖の変化が大きくなり、そうで急な積雪も予測されており野菜栽培管理はやや難しい時期となりそうです。

大門 優
園芸アドバイザー
お問合せ先
東部ふれあいセンター内営農課
TEL.51-8004
TEL.070-1296-1499

◎圃場管理対策

雪解け時の圃場に停滞水が見られないか点検し排水対策を徹底して根が伸びやすい環境を作りましょう。

野菜の根は空気層のある土壌にしか伸びていくことはできません。冬の間の根張り具合が春からの生育に大きな影響を及ぼしますので排水対策は欠かせません。

◎越冬野菜管理

2月下旬に入っていると追肥の時期になってきますが根の動きはまだまだ鈍いので、少量ずつこまめに与えることがポイントとなります。なお、地温が低いので有機質肥料は殆ど効かないため「そさい3号」や「野菜の達人」など速効性肥料を使います。一般的な追肥量は1回当たり30g〜40g/1㎡程度です。



ネギの根が畝面に出ています。充分土寄せを行いましょ。

イチゴは古葉掻き、ソラマメは土寄せを行います。3月にかけて風が強くなってくるのでエンドウは早目に支柱を立ててツルを誘引します。タマネギやニンニクは無マルチの場合は株間に追肥し除草を兼ねて中耕します。マルチ栽培の場合、追肥はマルチ上に撒いておけば降雨により順次マルチの穴から地中に浸透していきます。マルチの場合、肥料の流亡は少

ないので施用量は少なめで良いです。なお、ネギの古株にべと病や疫病、サビ病などの越冬病斑が目立つ葉は天候の良い時期を見計らって蔓延防止のため摘除しておきましょう。特に前年はニンニク、ネギ、タマネギにサビ病が多発しましたので注意が必要です。越冬キャベツやホウレンソウなどはトンネル被覆やベタ掛けなどを行うと生育が一気に良くなります。

◎補植苗

エンドウやソラマメなどで年内に植えた苗がカラスやネズミの被害や排水不良で消えてしまったり欠株が目立っている場合が多くあります。この場合、1月末から2月初めにかけて種を蒔き直しておきましょう。寒い時期の育苗となりますが、辛い豆類は比較的温度が低くても発芽してきます。方法は紙コップなどに水抜き用の穴をあけて培土を詰め、播種し乾燥しないようにレジ袋で覆って屋内の日当たりのある暖かなところに置いておきます。1ヶ月もすると本葉が開いてきますので3月中旬頃には植えられる苗となります。秋に播種した苗とは生育量は小さいので株間をやや詰めて植えます。なお、レジ袋で覆ったままにするとカビが蔓延することがあ



紙コップに播種されたエンドウ

◎ハウス野菜の管理

2月中旬に入ると晴天日が多くなりハウス内の温度が上がって野菜の生育も進んでいきます。日中は温度が急激に上がる一方、夜間は放射冷却で非常に冷え込む日も出てきますので最高最低温度計のチェックは欠かせず行いましょう。生育を促進しようとして灌水を多くしたり追肥を多く行ったり、ハウスを締め切りしがちですが、そうするとハウス内の湿度が高く推移しべと病や菌核病、灰色かび病などカビ菌(糸状菌類)に侵されやすくなります。この時期は野菜の生理に合わせてじっくり育てるように心がけてください。

病害虫では主力野菜のホウレンソウにべと病とケナガコナダニの被害が目立ち始めます。防除のポイントは播種前のネマモール粒剤の施用です。

それと2葉期のカスケード乳剤の散布、4〜6葉期のアフファーム乳剤の散布が基本となります。

◎ジャガイモの準備

3月中下旬になるとジャガイモの植え付けが始まりますが、浴光催芽を行う場合は2月中下旬から始まります。

○催芽(浴光催芽)

春の萌芽を早くするために植付け予定の20〜30日前(2月中旬頃)から芋に日光を当てて良い芽を育てる催芽を行います。無難に行うには丸玉のまま、日光の当たる暖かな場所に芋を重ねずにコンテナなどに小分けして重ねずに並べます。自家の芋を使用する場合は既に徒長した芽が立っている場合がありますので芽はすべて除去してか



浴光催芽



ケナガコナダニ被害株

ら陽に当てましょう。こうした方法で3〜4週間する(2〜5mmの紫黒色のしっかりとした芽ができます。植え付け1週間程度前にこの芽を2〜3個程度つけた状態で切断し傷口が乾いてから植え付けます。

よくグラウンドの隅で見かけますが、畑に隣接する農道、日当たりの悪い庭の隅や玄関周りでもよく見られるブヨブヨした海藻状のコケです。共通することは①常に湿り気がある。②地面が硬く締まっていることです。更に言えば石灰の散布が繰り返されアルカリ化した土壌を好むようです。



豆知識



イシクラゲの駆除

駆除方法

イシクラゲの生えやすい環境を改善することです。つまり①風通し、日当たりを良くし乾燥しやすい環境にすること。②地面を耕して空気層の多い土壌にするか表層に土を入れる。③土壌を酸性化する資材を散布する。等です。②と③を兼ねて鹿沼土やピートモスなど弱酸性〜酸性の土を混ぜ込んでみることも有効かと思ます。短期的には酢や熱湯を直接かけることですが範囲が広いとそれなりに大量の熱湯やお酢が必要となります。

薬剤による駆除

藻類やコケ類の専用駆除剤(芝生のコケ駆除剤であるゴーレット水和剤、キレダー水和剤など)を散布します。